

設立趣旨書

1 趣 旨

特定非営利活動法人萩テレワーク協会は、視聴覚障がい者の方たちの日常生活での情報保障の確立と地方創生の一環であるICTを活用したテレワークの普及、運用、そして未来を担う子どもたちの多用な文化活動を推進することにより、活気あるまちづくりをめざしていきます。

地方では人口減少や高齢化に伴い「労働力不足」「働く場所、働き方の多様性の低下」「子どもたちの発達環境」など厳しくなっている状況です。

また地域経済構造の変化にともなう所得格差や労働環境の厳しさ、生活のゆとりのなさ、モラル低下は社会全体に未来に対する閉塞感をうみ、子どもたちを含む市民に暗い影を落としています。視聴覚障がい者に対しても総務省の「情報バリアフリー環境の整備」により、視聴覚障害者向け放送の普及促進が始まりましたが、昨今の映像、音声提供方法はテレビ放送のみならず、DVDやネット動画配信等多様化しており、これらすべてに字幕付与などの対策を取ることは困難な状況にあります。

こうした中、2016年4月より施行された「障害者差別解消法」で映画、動画若しくはホームページ等、障害者、高齢者などの社会的弱者の日常生活、社会生活をカバーする幅広い分野で情報保障が必須になっている昨今、ハード面は進みつつあっても、ソフト面でのバリアフリー化はなかなか進展していません。

このような時代だからこそ、心搖さぶられる文化との出会い、驚き、感動を分かち合う体験、障がいの有無や年齢を超えた交流などを通して視野を広げ、感性豊かな人間形成が地域には必要となってきます。

私たちは、任意団体として実践してきた活動や事業を更に地域に定着させ、継続的に推進していくことと、活動を広げていくために他地域との行政や関連団体との連携を深めていく必要があることから、社会的に認められた公的な組織にしていくことが最良の策であると考えました。

将来的に子どもとおとのパートナーシップ、地域の諸団体、NPO、行政、企業などのネットワークや協働を通して、心と生活が豊かに育つ地域社会をつくっていきたいと考え、特定非営利活動法人萩テレワーク協会を設立します。

2 申請に至るまでの経過

私は平成23年に広島県が実施した「ひとり親家庭ITスキルアップ就業支援事業」に参画し
テレワーカーの育成から業務開拓・運用までをサポートしてきました。

また同時期に聴覚障がい者用字幕制作にも携わり、障害福祉分野での情報保障の重要さも
認識しました。

その後、放送関係や関連団体などと連携しながら、聴覚障がい者用字幕制作業務を
全国でも珍しいテレワーク業務として確立させてきました。

テレワークと聞くとパソコン技術が高くないとできないと思われている方が多いのも事実ですが、
広島ではパソコン初心者を字幕制作テレワーカーとして育成した実績があるように、
それほど難しいことではありません。

2025年1月に萩市に拠点を移し、個人事業として活動を開始。

現在、萩市にてテレワーカー育成、バリアフリー上映会実施などを展開しています。

来年度は行政と連携したテレワークの普及、推進活動、視聴覚障がい者の情報保障の強化と
新しく新設する中学生部活動地域移行ICT活用した自宅参加型文化クラブを計画しています。
このような背景から、信用取引、法的ハードルや資金面を考えNPO法人化を検討しました。

2025年10月25日

特定非営利活動法人 萩テレワーク協会

設立代表者 山口県萩市大字堀内290番地11

氏名 田窪 日出男